

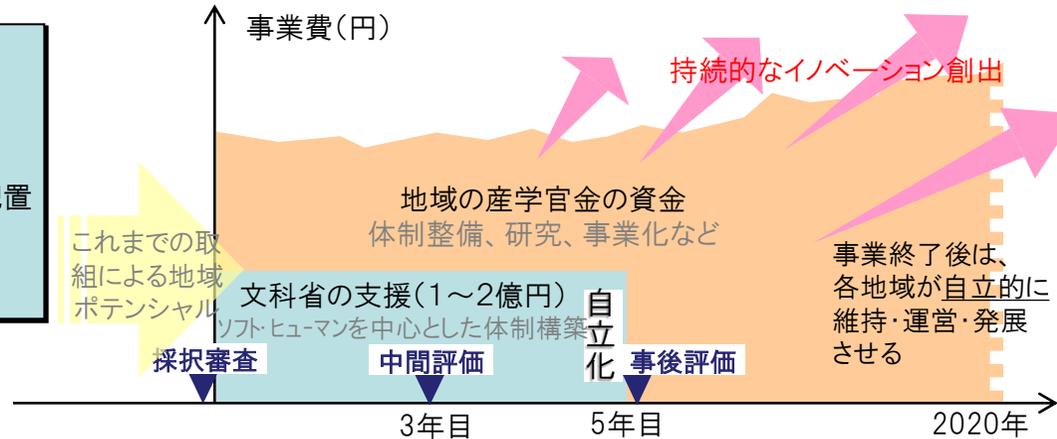
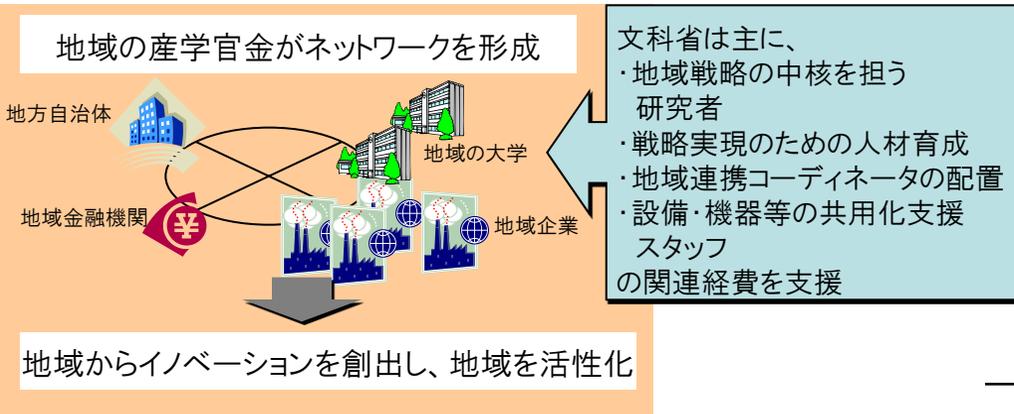
地域イノベーション戦略支援プログラム

平成25年度予算額：54億円
平成26年度概算要求額：56億円

事業の目的 地域イノベーションの創出に向けた**地域主導の優れた構想を効果的に支援**するため、大学等の研究段階から事業化に至るまで連続的な展開ができるよう、**関係府省の施策と連携して支援する。**

事業の概要 関係府省が共同で選定した「地域イノベーション戦略推進地域」のうち、**文科省の支援が戦略の実現に大きく貢献すると認められる地域**に対し、**研究者集積、人材育成プログラムの開発などのメニューを組み合わせ**て支援を実施（年間1～2億円程度の定額補助。地域は補助額と同額以上の事業を別途実施）。

国の役割 ・地域の主体的な取組を基本とし、地域独自の取組で不足する部分（文科省は人材関連）を支援【**地域イノベーションに必要な人件費等**】



PDCAサイクルによる検証

採択

①審査体制：外部有識者による書面及びヒアリング
②審査の視点の例：
・長期的視点に立った「地域イノベーション戦略」とその目標及び活動計画
・独自のPDCAサイクルを組み込んだ取組とするための体制
・これまでの産学官連携の実績と地域のポテンシャル

採択(支援額の査定、有識者コメント) → 不採択

中間評価

①評価体制：外部有識者による書面及びヒアリング(3年目)
②評価の視点の例：
・目標に対する進捗状況
・イノベーション活動において課題が発生した時のPDCA機能

継続(支援額の再査定、計画の見直し指示) → 中止

事後評価

①評価体制：外部有識者による書面及びヒアリング(予定)
②評価の視点の例：目標の達成状況及び成果(予定)

成果

○システムLSI関連企業の集積が、2000年度末の21社から2012年3月末時点で**10倍の253社**へと拡大
○福岡システムLSI設計開発拠点推進会議の会員数が、39会員から**約12倍の335会員**に拡大
○システムLSIを活用した研究開発により、多数の試作品を開発 (福岡地域)

○**成果普及の拠点として「ナノテク・材料活用支援センター」を設立**
○参画企業数が平成14年当初の**18社から54社へ拡大**
○有機半導体全般の精製に当たって、有用な、時間・材料ロスを大幅に削減する装置を信州大学と参加企業が共同で開発 (長野地域)

水分を保有する働きがあるプロテオグリカンを活用した美容製品及び健康食品の開発を行い、平成24年度末時点で**100品目以上の実用化、11億円を超える売上げ**を実現 (青森地域)



事業の目的

大学等の研究ポテンシャルや地域資源等を柔軟に活用し、新たな産業や雇用を創出するため、企業だけでは実現できない**革新的なイノベーションを産学官連携で連続的に創出し、日本経済を再生に導く。**このため、**産学官が共有して革新的課題の研究開発に取り組む拠点を整備**する。

事業の概要

産学官が人材、設備、知財を一つ屋根の下で共有して革新的課題の研究開発に取り組む「場」を構築するための**施設や設備機器の整備に係る経費を支援**する。(15拠点を採択)



(計画の例)

国の役割 ・オールジャパンで革新的なイノベーションを行う「場」を整備 【我が国を代表する拠点の**施設整備費**】

事業成果の確認

○ 事業完了後の調査について

交付要綱等の定めに基づき、実績報告書の審査及び現地調査等により、**実施結果が交付決定の内容及びこれに附した条件に適合しているかの確認を実施**する。調査にあたっては国際科学イノベーション拠点を創出しようとする各拠点の事業計画に基づき、大学等と企業とが一体となり産学共同で取り組む体制が整備されているかも含め確認を行う。

(確認項目の案) 施設・機器の整備状況、企業の参画状況(入居状況など)運営・管理の体制、資金の見込み など

【参考】地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金交付要綱(抜粋)

第15条 大臣は、前条第1項の規定による実績報告を受けた場合には、**実績報告書等の書類の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付の決定の内容(第10条に基づき承認をした場合は、その承認された内容)及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき補助金の額を確定し、補助事業者に確定通知書(様式10-1又は10-2)をもって通知するものとする。**(※地域産学官連携科学技術振興事業費補助金交付要綱にも同様の規定有り)

○ 補助事業実施期間内及び実施後の調査等について

公募要領の定めに基づき、**事業の実施状況又は整備後の利活用状況等について必要に応じて文部科学省による調査等を実施**する。具体的な実施方法については今後各拠点における整備状況等を確認のうえ検討を行う予定である。

【参考】地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業公募要領(抜粋)

5. その他

本事業の原資が国費であることに鑑み、事業者内部の管理・監視体制の構築や事業の適正な実施に係るルールの策定などの取組を行っていただきますようお願いいたします。なお、本事業の実施期間内又は実施後において、実施状況又は整備後の利用状況等について、文部科学省により調査等が行われる場合があります。

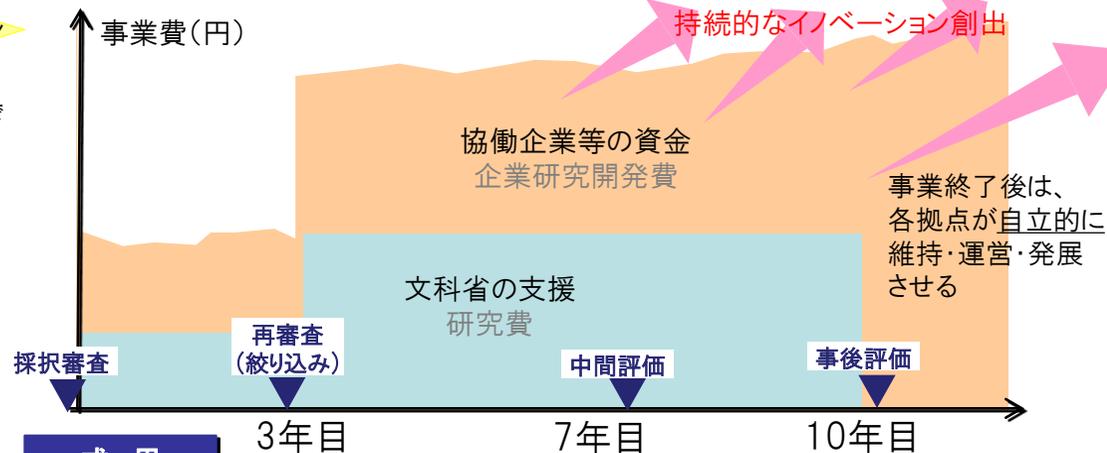
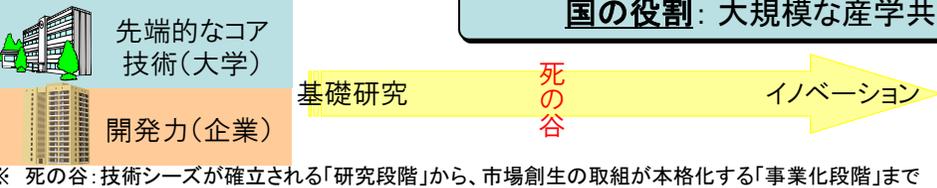
先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム

平成25年度予算額：66億円
平成26年度概算要求額：66億円

事業の目的 イノベーションの創出のために特に重要と考えられる先端的な融合領域において、企業とのマッチングにより、新産業の創出等の**大きな社会・経済的インパクトのある成果(イノベーション)**を創出する**拠点の形成**を支援

事業の概要 大学等公的研究機関が基礎研究段階から企業と協働して拠点を形成し、イノベーションを創出するための**産学協働研究を支援**。支援期間は10年間とするが、3年目に再審査を行い、拠点数を絞り込む(採択21拠点→12拠点)。(3億円/年(最初の3年間)、7億円/年(本格実施後)の定額補助。国が支援する直接経費と同額以上を企業が拠出)

国の役割：大規模な産学共同研究の推進【産学共同で行う研究費】



PDCAサイクルによる検証

採択審査

- ①審査体制：外部有識者による書面及びヒアリング
- ②審査の視点の例：
 - ・社会・経済的インパクトのある成果とその実現可能性
 - ・拠点運営体制、人材育成の内容
 - ・大学のシステム改革の内容

採択(支援額の査定、有識者コメント) → 不採択

再審査

- ①評価体制：外部有識者による書面及びヒアリング(3年目)
- ②評価の視点の例：
 - ・拠点継続の可否
 - ・企業の本気度(資金拠出など)

絞り込み → 中止

中間評価

- ①評価体制：外部有識者による書面及びヒアリング(3年目)
- ②評価の視点の例：
 - ・目標の達成状況
 - ・成果(イノベーション)の進捗状況

継続(支援額の再査定、計画の見直し指示) → 中止

事後評価

- ①評価体制：外部有識者による書面及びヒアリング(予定)
- ②評価の視点の例：目標の達成状況及び成果(予定)

成果

東京大学

論文：国内外594件
特許(登録)：11件
など
⇒「量子ドットレーザ」を、当初計画より1年前倒して開発・販売開始など



京都大学

論文：国内外573件
特許(登録)：19件
など
⇒「眼底光イメージング装置を開発・販売



大阪大学

論文：国内外887件
特許(登録)：39件
など
⇒「高感度ガスクロマトグラフシステム」を開発・販売開始など



3事業の比較

	地域イノベーション戦略支援プログラム	国際科学イノベーション拠点整備事業	先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム
事業の目的	科学技術による地域の活性化	オールジャパンの革新的研究の「場」の整備	大規模な産学共同研究の推進
対象経費	主に人件費	施設整備費及び高度研究機器整備費	研究費
採択時期	平成23年度～	平成24年度のみ	平成18年度～20年度
実施件数(現在)	29地域	15拠点	12拠点
1件当たりの予算規模(現在)	1～2億円/年	数億円～数十億円	5～7億円/年

主な成果

地域イノベーション戦略支援プログラム

先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム

地域名	論文数(件)		特許取得数(件)		受賞(件)	商品化、実用化、起業化件数(件)	本事業の成果による収入(売上、実送料収入等)(千円)	成果の例	(参考)成果件数集計期間	拠点名	論文数(件)		特許数(件)	受賞(件)	研究成果の例
	国内	海外	国内	海外							国内	海外			
北大リサーチ&ビジネスパーク	137	497	0	0	15	50	575,512	北海道産黒大豆「黒千石」の免疫賦活化性物質を解明し関連商品を開発 研究用ソルバトクロミック色素「POLARIC」を開発 研究用タンパク質分離装置「Nativen」を開発	H19-24	高次生体イメージング先端テクノハブ(京都大学)	160	413	19	35	撮像スピードと高精細化を同時に実現する眼底光イメージング装置を開発 受診者の負担を軽減した乳がん診断用超音波イメージング装置の開発 小型化、高感度化を実現する原子磁気センサイメージング装置の開発
健やかな少子高齢化社会の構築をリードする北陸ライフサイエンスクラスター	80	429	20	2	41	23	51,600	世界で初めてヒトの背髄伝搬磁場の測定に成功(現在臨床試験中) アミノ酸メタボロミクスのための酵素チップと診断装置を開発	H20-24	ナノ量子情報エレクトロニクス連携研究拠点(東京大学)	158	436	11	144	高出力、高速、低消費電力化を実現する量子ドットレーザーの開発 通信波長帯単一光子型量子暗号通信技術の開発
浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション	72	209	8	2	78	146	1,051,105	高速度イメージセンサ、放射線ラインセンサ、高色忠実度デジタルカメラ等を製品化	H19-24	未来創薬・医療イノベーション拠点(北海道大学)	19	369	9	22	新規糖鎖マイクロアレイの開発 半導体検出器技術を用いた高精度PET/SPECTの開発、臨床応用
京都科学技術イノベーション創出地域	98	169	18	5	56	80	10,416,780	SiCの超低損失パワーデバイスを開発	H20-24	再生医療本格化のための最先端技術融合拠点(東京女子医科大学)	51	369	5	53	開発した細胞シートを用いて角膜、歯周等の領域における臨床研究を実施
福岡次世代社会システム創出推進拠点	205	520	28	7	87	370	1,376,681	Wi-Fi無線通信環境整備に低コスト化を実現する中継基地局を開発し、一部の大型商業施設や病院、ホテルに導入済み	H19-24	フォトニクス先端融合研究拠点(大阪大学)	261	626	39	122	長寿命、軽量、高効率の有機薄膜太陽電池の開発 生きたままの状態で生理現象を顕微鏡観察するレーザー顕微鏡、光を用いてDNAが見えるナノメータ顕微鏡に関する技術を確立
あおもりグリーン&ライフ・シナジーイノベーション創出エリア	3	7	0	0	4	275	1,119,008	大手化粧品メーカーや大手飲料メーカーと共同でプロテオグリカンを活用した美容製品及び健康食品を開発	H22-24	先端融合医療レドックスナビ研究拠点(九州大学)	85	443	5	40	臨床適合型オーバーハウザー効果MRIの試作 抗酸化による糖尿病性血管合併症進展抑制を示すエビデンスを実証

※ 知的クラスター創成事業等の旧事業からの取組成果も含めている。